

【資料2】

⑥

洪水ニ付見舞

一 重組

一 味噌漬香之物

三 ひら塩焼(飛)

木くらげ

二 梅ほし(本)
四 にしめ(兔)

植田

酒式升

干わら(毛)ひ
氷とふ(婦)

ノ

白米四升ツ、

髪結

出入り

同

八 蔵

佐兵衛

清蔵

同 三升ツ、

出入り

同

同

林 平

幸助

万(萬)蔵

同

御崎

出入り

弥曾吉

おた(多)つ

利助

筆者は、筆跡から三郎右衛門（11代）と考えられる。三郎右衛門は分家の花屋から養子に入る。その在世期間から考えて、これは嘉永3年（1850）の水害の記録と思われる。

一 ぬめし (兔) おはま (者満)

にしめ (糸) 紋助
いりこ 茂吉
こんふ



一 白米 弍升 御崎
おりき (里起)

一 むすひ (春) 老重ツ、 広畑 (廣)

同 佐吉

同 亀吉 (龜)

同 周蔵

同 七蔵

いせ蔵
五人

一 きす (春) 七つ 福島 (嶋)

きす

一 にしめ (糸) 干わらひ 神崎
こんふ (婦)

一 重組
廣江屋(廣)

砂糖かけ

ゑ(飛)ひ

一 丸山梅

二 きんなん

(志)しやうか(可)

三 うなき

四 玉子卷すし(卷)

五 のり卷すし

酒壺升

右者安江村江遣ス

一 かまほこ 三枚
坂口屋

囉合

一 白むし 壺重
瀬尾屋

ひ(者)はも 三本

囉合

一 赤飯 式升 壺重
植田

氷とふ(婦)ふ 式十

料理物 (志)しゐたけ 式十

(飛)かんひよう

一 かれ(連)る 壹枚 せ(勢)に屋

一 羊羹 貳本 さ(佐)くらや

囉合

一 かま(満本)ほこ 三枚 広(廣)田屋

一 あ(阿)かう 三ツ 同家 ↑追記
新宅

一 同 貳枚 尾崎

一 同 貳枚 三宅屋

一 同 貳枚 い(主)わしや

一 同 貳枚 う(越)を(越)や お(婦)ふさ

一 同 三枚 羽(満)しま 庄屋

一 同 三枚 松の木